

# 名詞転成動詞における移動の要素

岩 沢 玲 子

## 序 論

ある語が、形を変えずに品詞を変えることがある。これを完全転換 (complete conversion) という (Zandvoort, 1962, p.266)。その中でも名詞から動詞に転換する語は多い。この名詞転成動詞について, Quirk *et al.* (1972, pp. 1012—3) は意味上, 転じる前の名詞Nとの関係で次のような分類をしている。

- [A] 'To put in/on N': *bottle* ('to put into a bottle')
- [B] 'To give N, to provide with N': *coat* ('to give a coat to')
- [C] 'To deprive of N': *core* ('to remove the core from')
- [D] 'To... with N': *brake* ('to stop by means of a brake')
- [E] 'To  $\left\{ \begin{array}{l} \text{be} \\ \text{act as} \end{array} \right\}$  N with respect to...': *chaperon* ('to act as chaperon to')
- [F] 'To make/change... into N': *cash* ('to change into cash')
- [G] 'To  $\left\{ \begin{array}{l} \text{(a) send} \\ \text{(b) go} \end{array} \right\}$  by N': (a) *mail* ('to send by mail')  
(b) *bicycle* ('to go by bicycle')

一方, Ray Jackendoff (1983) は, 名詞転成動詞の一部を移動の観点から論じている。

そこで本稿では Quirk *et al.* の分類を基に, 移動の要素に着眼して, 名詞転成動詞を考察することにする。なお, この分類に入る動詞の大半が Quirk *et al.* (1972) の指摘するように transitive であり (p.1013), 本稿でも transitive に限って考察していく。

## 1. 名詞転成動詞の移動の要素

### 1.1 [A]—[C] タイプにおける移動

Jackendoff (1983, p.184) は, Quirk *et al.* の分類のうち[B], [C]にあたる動詞を含む例文

- 1) Nicky *buttered* the toast
- 2) Sam *dusted* the furniture

について, 各々

- 1') Nicky *put butter on* the toast
- 2') Sam *took (the) dust off* the furniture

という書き換えをしている。そしてこの1), 2)の名詞転成動詞について, 次のように述べている。

Thus the verbs “butter” and “dust” lexicalize not only the path-function but the theme as well, leaving the agent and the reference object as the two syntactically expressed arguments. (p.184)

すなわち, 転成動詞 ‘butter’, ‘dust’ は on, off という ‘path-function’ ばかりでなく, ‘theme’ をも ‘lexicalize’ しているという。theme とは “the NP understood as undergoing the motion” (Jackendoff, 1972, p.29) という定義の如く, 動かされるものである。1)においては ‘butter’ がトーストの上に (on the toast) 動かされるのであり, 2)では ‘dust’ が家具から (off the furniture) 動かされるのである。

この1), 2)における移動は, Quirk *et al.* の分類の[B], [C]にもあてはまる。[B]coat (‘to give a coat to’) は theme の ‘coat’ が to 以下に動かされ, [C]core (‘to remove the core from’) は theme の ‘core’ が from 以下から動かされるといえる。従って, 名詞転成動詞のうち[B], [C]に関しては, 元の名詞Nが theme として, 方向の違いはあれ, 動かされるという移動がみられる。

ここで[A]タイプに考察を進めるために 1), 2)の目的語 *the toast, the furniture* に着目したい。これらは先に Jackendoff が述べているように、統語論的に表現された (syntactically expressed) 目的語である。意味論的にはそれぞれ

1') Nicky put butter *on the toast*

2') Sam took (the) dust *off the furniture*

との比較から、J. Anderson (1971) のいう目的語化された “underlying locative” (p.92) である。すなわち “objectivized locative” である。

そこで[A]タイプの例

3) They *bottle* fruit (OALD)

に考察を進めると、

3') They *put* fruit *into a bottle*

との比較から、*into a bottle* という locative が動詞 ‘*bottle*’ に潜在する underlying locative であり、いわば verbalized locative になっているのがわかる。そしてこの[A]タイプにおいても、フルーツを ‘*bottle*’ の中へ動かすという移動がみられる。

このように、[A]—[C]タイプでは underlying locative がかかわっており、動かされるもの theme の移動がみられる。[B], [C] では元のNが theme となり統語論上の目的語が underlying locative である一方、[A]では元のNが underlying locative で目的語が theme になっている。[B]と[C]の theme の移動の方向は逆であるが、その区別はNと underlying locative との関係にあるように思われる。[B]タイプでは、underlying locative はNをもともと有しているわけではない。

4) The sweat *salted* his eyes (OMS, p.74)

*saddled* his horse and rode away (LDCE)

*sand* the rodes (LDCE)

*sole and heel* a pair of shoes (OALD)

これに対して、[C]タイプでは、概してNをとられる underlying locative は

Nをもともと有している。

5)a) *milk* a cow (cf. *OALD*)

b) *core* an apple (*OALD*)

*gutted* him [the dolphin] with his right hand (*OMS*, p.66)

They often *hulled* corn (*LHBW*, p.126)

b)のようにNは agent にとって不用のものが多い。先の例2)は underlying locative にNがもともとあるわけではないが不用のNである。

2) Sam *dusted* the furniture

一方, [A]タイプでは, 元のNが underlying locative であるということから, 次の例のようにNは theme ([A]タイプでは目的語) の置き場所として機能しうる語である。

6) Heracles *beached* his ship (*TG*, p.121)

*garage* a motor-vehicle (*OALD*)

7) The soldier *floored* his attacker with one heavy blow (*LDCE*)

ただし 7) と違って

7') *floor* a house

は 'floor' が a house の置き場所には普通なりえないので[A]タイプではない。また a house に 'floor' は通常不用のものではないので[C]タイプでもない。すなわち a house に 'floor' を敷く (置く) という[B]タイプである。従って[A]—[C]タイプのどれにあてはまるかは underlying locative と theme との関係で決定されるようである。

## 1.2 [D], [G] タイプにおける移動

次に[D], [G]タイプを考察する。[A]—[C]タイプでは, 動詞に転換する名詞と目的語が, underlying locative や theme にかかわっているために, 統語論上, SVO の中に移動がおさまっていた。しかし[D], [G]タイプにおいては Quirk *et al.* の説明するように, 転換する名詞は "by N" として手段としてかかわっている。従って, [A]—[C]タイプでは underlying locative と

して潜在していた *locative* が、移動のみられる[D], [G]タイプでは顕在しうることが予想される。

[G]タイプの transitive: 'To send by N' では、まず通信手段を表すNの転成動詞がある。

8) *mail a letter to one's mother*

*We telegraphed the bad news to her (cf. LDCE)*

において、'mail', 'telegraph' という通信手段を表すNの転成動詞により、移動されるのは a letter, the bad news である。すなわち、これらが theme になる。そして to one's mother, to her という *locative* が、移動の path を記述している。また、[G]タイプの 'send' の手段として乗物を表すNの転成動詞がある。

9) *ship gold to India (OALD)*

*Charon ferried him across the Black River Styx (TGH, p.154)*

*they cannot merely be bused back to the borders of their countries (T. Aug. 25 '85, p.8)*

においても、theme と *locative* が8)と同様に現われている。これらの[G](a)タイプの転成動詞はそもそも 'send' という意味をもつ移動の動詞である。

次に、[D]タイプに移る。これに関して Quirk *et al.* (1972) は、次のように意味を詳述している。

More precisely the meaning of the verb is 'to use the referent of the noun as an instrument for whatever activity is particularly associated with it'. (p.1012)

すなわち、[D]タイプのNとは道具 (instrument) を表すものである。この道具を表すNから転じる動詞の比較的多くのものに「移動」をみることができる。まず次の例

10) *fork hay into a wagon*

*Ma opened the front of the cookstove and raked hot coals out into the iron hearth (LHBW, p.14)*

*shovelled it [a wall of snow] away* (LHBW, p.39)

*Scoop some sugar out of the bag* (LDCE)

では道具Nを使って物を移動している。また 'pipe' も

11) *pipe water into a house* (OALD)

のように water などを移動するために使われる道具である。体の一部もまた

12) *I tried to stop him, but he elbowed me out of the way* (LDCE)

のように何かを移動するのに使う道具としてのNの転成動詞になりうる。13)も同様である。

13) *shoulder people aside* (OALD)

ここで13)と14)を比較したい。

14) *shoulder a burden* (OALD)

これには13)でみられた locative がない。つまり、14)は locative が shoulder に潜在する underlying locative になっている先の [A]タイプであり、'take a burden on the shoulder(s)' の意となる。従って、Nに locative が潜在する14)のような[A]タイプなどと違って、10)–13)のような移動の道具としてのNの転成動詞では locative が現われてくる。

以上、[D]、[G]タイプの移動の手段としてのNの転成動詞における移動の要素をみてきた。

### 1.3 [F]タイプにおける移動

残るタイプのうち、[F]タイプ「～をNにする」においても移動をみる事ができる場合がある。まず次の例

15) *We bundled everything into a drawer* (OALD)

では 'bundle' という「束」の状態にして、すべてのもの (everything) を、引き出しの中に (into a drawer) 移動する。

16) *pack clothes into a trunk* (OALD)

でも15)と同様である。また、

17) *pile more coals on the fire* (OALD)

では、より多くの石炭 (more coals) を ‘pile’ という「山」の状態にして、暖炉などの火に (on the fire) 移動する。

このようにNの状態にされた目的語が theme となり、その移動を locative が記述している。従って、[F]タイプの名詞転成動詞の中にも移動の要素がみられるものがあるといえよう。

以上、Quirk *et al.* の分類する[A]—[G]タイプの名詞転成動詞のうち6タイプにみられる移動の要素をみてきた。theme と locative を使って簡略に列記すると次のようになる。

- [A] 「～をNにおく」 SVO[theme]... loc. がVに潜在
  - [B] 「～にNをおく」 SV[theme]O
  - [C] 「～からNをとる」 SV[theme]O
  - [D] } 「Nで～を移動する」 SVO[theme]loc.
  - [G] }
- [F] 「～をNにして移動する」 SVO[theme]loc.

「SV theme loc.」の構造を作る典型的な動詞は移動の動詞である。

Ex. I *put the plate on the table*

従って、[A]—[C]では theme や loc. が潜在してはいるが、本章で扱ったような名詞転成動詞は一種の移動の動詞といえるであろう。

## 2. with variant の考察から

次に、名詞転成動詞を移動の動詞として捉えて考察を進めることになるが、その前に本章では *with variant* の考察をする。

18)a) They *loaded the truck* (LDCE)

b) They *loaded the truck with cartons*

を比較したい。a) の名詞転成動詞 ‘load’ は ‘to put a full load on or in’ (LDCE) とあるように、[B]タイプに相当する。「the truck に ‘load’ を移動する」の意となる。従って、移動をうける theme は ‘load’ であり動詞に含ま

れている。この[B]タイプに属する転成動詞 'load' が b)ではどのような働きをしているかを theme に着目して考察することにする。

M. Rappaport & B. Levin (1988) はb)を *with variant* として分析をおこなっているが、物理的移動をうける theme に限ってその分析に従えば、b)の theme は with の後の cartons であるという。(p.27, p.31) そうであるとするとa)で theme である 'load' は、b)ではどうなるのであろうか。まずb)に類似した表現

19) *She threaded a needle with a strong white thread* (LHBW, p. 123)

では、名詞転成動詞 'thread' は 'to pass one end of a thread through a hole of a needle' (LDCE) の意であることから、移動をうける theme は 'thread' である。その 'thread' と with の後の a strong white thread とは、前者を後者がより詳しく述べる形になっている。同様に 18)b)でも 'load' を with の後の cartons がより詳しく述べているのではないかと考えられる。

20) *pile a table with dishes* (OALD)

でも同様であるように思われる。「a table を dishes で 'pile' という『山』の状態にする」とき、実際には「a table に dishes の 'pile' をおく」のである。「山」につみあげられるのは table ではなく dishes であり dishes の 'pile' である。従って、20)でも 'pile' を dishes がより詳しく述べている。

21) *heaped the washtub with clean snow* (LHBW, p.51)

も20)と同様であろう。

同じように動詞に転じる前のNを with にひきいられる語句が更に詳しく述べている表現を挙げる。

22)a) *Aunt Rugby pinned her collar with a red rose made of sealing-wax* (LHBW p.84)

b) *She shut her in a tower... which was plated all over with brass* (TGH p.70)

c) *His land is fenced with barbed wire* (OALD)



順に a red rose が 'pin' を, brass が 'plate' を, barbed wire が 'fence' をより詳しく述べている。

しかし,

23) They[bees] couldn't sting through his thick fur and he[a bear] kept *brushing* them away from his head with *one paw* (LHBW p. 114)

では, one paw が 'brush' を詳しく述べているわけではない。'brush' ではなく one paw を使ってそれらを (them) 頭から (away from his head) 払いのけている。従って, 'brush' の元の道具としての意味は磨耗していると考えられる。すなわち, N は literal でなく figurative に使われているにすぎない。

ともあれ 18)–23) では *with variant* の語句が theme としての N や, 手段としての N をいいかえていることになる。

それに対して[A]タイプの「Nにおく」でも N をいいかえる表現がある。

24) *Penning the cattle in the cave* behind him, Apollo followed the tracks... (TGH, p.24)

この場合, *with variant* でないのは locative の N をいいかえるためであろう。

以上のことから, 名詞転成動詞の作る文の構造は, 本章のはじめに記した基本的な構造より多様なものになると考えられる。しかし最終章では, 基本型の文を中心に考察を進めていく。また, N が literal か figurative かは必ずしも触れない。

### 3. 物理的移動と抽象的移動

これまでとり挙げた移動はすべて物理的移動であった。従って, この最終章では名詞転成動詞でも, 移動の動詞と同様に<sup>(註)</sup>, 物理的移動だけでなく抽象的移動の表現が可能であることを考察していく。

### 3.1 物理的移動から抽象的移動へ

theme の移動を記述する locative に注目していきたい。まず

25) *hammer nails into wood* (OALD)

において、「‘hammer’ を用いてくぎ (nails) を木に (into wood) 打ち込む」とき、nails の物理的な移動を into wood が記述している。

26) *hammer nails in* (LDCE)

でも同じ動きを表現しうる。というのも、Leech (1969) のいうように in は into の “stylistic variant” (p.192) であり、一方 wood に相当するような語句は Bolinger (1971, p.23) のいうように文脈上明らかであるような時、省略されうるからである。従って、26) の in も nails の物理的な移動を記述している。次の onto の “stylistic variant” である on の例でも同様のことがいえるであろう。

27) *hook something on (the wall)* (OALD)

*pile more coals on (the fire)* (OALD)

また、次も文脈上明らかにする必要がない例に含まれるであろう。

28) *Grandpa ladled out the syrup* (LHBW, p.90)

*pump water out* (OALD)

次に

29) *strapped the bundle of furs on his shoulders* (LHBW, p. 61)

では、「‘strap’ (ひも) で毛皮の束 (the bundle of furs) を肩に (on his shoulder) 縛りつける」とき、毛皮の束は移動をうける theme といえる。そのとき on his shoulder は theme の移動の記述をしている。‘strap’ と同様に他の名詞転成動詞も同様の locative をとることがある。

30) *The officer belted his sword on* (OALD)

*he buckled on both sword and sandals* (TGH, p.142)

この場合の on は Bolinger (1971, p.21) のいう体の一部もしくは再帰代名詞が省略されたものであろう。

さて、Fraser (1974) は幾つかの名詞転成動詞について、particle との結合関係から、次のように述べている。

...most of the nouns given in the listings above never occur as verbs except in verb-particle combinations. (p.24)

すなわち、そのほとんどの名詞が動詞に転じる要因は、particle との結合であるという。例えば、次のような固定するために使う道具としてのNは down と結合して動詞になるという。

batten, bolt, button, cement, clamp, glue, nail, paste, pin, rivet, screw, staple, tack, tape (p.22)

確かに特定の particle と結合しなければ動詞にならない語は多いが、particle 以外の locative をとることもある。

- 31)a) *glue a piece of wood on to something (OALD)*
- b) *tack a ribbon on to a hat (OALD)*
- c) *nail a lid on a box (OALD)*
- d) *He riveted the metal sheets to the ship's bottom (LDCE)*

従って、名詞が動詞に転じる要因が、particle との結合であるというよりも、むしろ locative との結合であると捉えた方が良いように思われる。

しかし、31)において物理的に移動が関係しているかということは一概にはわからない。例えば b)では「'tack' でリボン (a ribbon) を帽子に (on to a hat) 留める」とき、リボンは別のところから帽子のところに移動されたと考えられる。一方 c)では、「'nail' でふた (a lid) を箱に (on a box) 固定する」ときもともとふたは箱にのせられてあったかもしれない。同様のことが次の together との結合でもいえる。

- 32)a) *I bolted the 2 parts together (LDCE)*
- b) *Clamp these 2 pieces of wood together (LDCE)*
- c) *pin papers together (OALD)*
- d) *Please paste these sheets of paper together (LDCE)*
- e) *He nailed the boards together and made a crate (OALD)*

例えばc)やd)はもともと重ねられていた paper(s) を ‘pin’ や ‘paste’ で留めただけならば、物理的に移動をうけたとはいえない。

それでは31), 32)に theme と locative の概念をあてはめることはできないのであろうか。このことを次節で考察する。

### 3.2 状態の変化という抽象的移動

まず、32)の他の道具を表すNの転成動詞や「Nにする」タイプの転成動詞なども together の表現を作る。

33) *rope climbers together* (OALD)

*Group the roses together* (OALD)

they would *knot* them [the stalks] *together* to make a longer strand

(LHBW p.117)

また、次の道具としてのNの転成動詞も31)と同様に一種の固定表現を作る。

34) *harness* them [the four horses] *to a chariot* (TGH, p.116)

*yoke* a wild boar and lion *to his chariot* (TGH, p.110)

they found a lovely girl *chained to a rock* (TGH, p.121)

He *buckled* himself *into his seat* (LDCE)

さて、31)–34)について少なくともいえることは、目的語の状態の変化である。ばらばらであったものが together の状態になり、固定されていなかったものが固定された状態になるのである。状態の変化とは、Jackendoff (1972, p.31) が論ずるように、抽象的な場所 (“abstract locative”) における変化と捉えることができる。そうであるならば、31)–34)にも移動をうける theme とその移動を記述する locative の概念をあてはめることができる。

物理的移動と状態の変化という抽象的移動とは、しばしば同時に進行することがあるように思われる。例えば、

35) *rake* the dead leaves *off the lawn* (OALD)

36) *saw* a branch *off a tree* (OALD)

は相方、道具Nを用いて theme を物理的に移動するという同様の構造にみえ

る。しかし36)は単なる物理的移動だけではない。a branch の移動の一方で a tree 自体にはその一部が 'saw' によって切られるという状態の変化が起きている。

そこで本節では, theme に状態の変化が起こることが明らかな例をみていくことにする。まず, 次は theme 自体が道具Nによって状態の変化を起こす例である。

37) He had been *bludgeoned to death* (OALD)

I am too old to *club sharks to death* (OMS, p.96)

その状態の変化を locative の to death が記述している。

次に, locative に現われる名詞が, 状態の変化をしたあとの theme に等しい例がある。

38) *saw a log into planks* (OALD)

*hammer the hot metals into swords and plough shares* (TGH, p.34)

*she moulded it[meat] into balls* (LHBW, p.16)

The water was *churned into foam* (TGH, p.159)

*combed it[their hair] into long, round curls* (LHBW, p.95)

これらは道具としてのNの転成動詞の例であるが, 次は「Nにする」タイプの転成動詞の例であろう。

39) the first job was always to *stack them* [paper cylinders] *into a neat enough pile* to give him room to work (1984, p.162)

38) や 39) の locative は, Jackendoff (1976) の言を借りれば, 移動の動詞と共に現われる “Identificational” (p.102) な抽象的移動を表す locative と同じであるといえる。

この種の locative と同列の位置に移動の動詞の場合と同様, 転成動詞においても Adj. が現われることがある。例えば, 次は体の一部が道具としてのNとして使われる転成動詞であるが, 40)は Adv. であるが41)は Adj. である。

40) he[a big bear] *pawed it[a rotten log] apart* (LHBW, p.135)

41) The dog *nosed the door open* (LDCE)

She *clawed* the door *open* (LDCE)

同様に次の道具を表すNの転成動詞の例でも theme の状態の変化の結果を Adj. が記述している。

42) *hammer* a piece of metal *flat* (OALD)

They *brushed* it[their hair] so *smooth* (LHBW, p.83)

The thieves *bludgeoned* the old man *senseless* (LDCE)

また、次は「Nをおく」タイプの転成動詞の同様の例であろう。

43) *paint* the gate *green* (OALD)

*colour* a wall *green* (OALD)

形容詞句が記述する例もある。

44) She *grated* it[a long carrot] on the bottom of the old, leaky tin pan that Pa had *punched full of nail holes* for her (LHBW, p.22)

以上、Nの転成動詞が状態の変化という抽象的移動をひき起こす例をみてきた。

### 3.3 心理変化という抽象的移動

最後に、名詞転成動詞が theme の心理的变化をひき起こす例を考察する。まず

45) The speaker *lashed* his listeners *into a fury* (OALD)

*goad* sb. *into a fury* (OALD)

では、道具を表すNの転成動詞により theme が激怒の状態に (into a fury) なるのであるが、これは心理の変化と捉えることができると同時にまた、行動の変化と捉えることができるであろう。

次の例

46) the farmer... *cudgelled* him[the lion] *off the premises* (FA, p. 20)

*decoying* its fellow *into the nets* (FA, p. 92)

では、locative が物理的移動を表しているが、45)と同様に道具を表すNを使って theme に心理変化を起こし theme 自らが行動をするといえるであろう。

従って、§3.1, §3.2で扱ってきたような受動的な theme の移動とは異なることになる。同様の locative が「Nにする」タイプの転成動詞の例

47) The farmer *herded* the cows *into the field* (LDCE)

でもみられる。‘herd’ という「群れ」の状態にされて the cows は牧草地に (into the field) 移動する。

さて、次のように移動の動詞が

a) They *led* him *into the building*

b) They *led* him *into believing that the scheme was profitable*

c) They *led* him *to believe that scheme was profitable* (Miller, 1985, p.156)

a)では46), 47)のような locative をとる一方, b)では動作名詞を含む抽象的な locative を, c)では不定詞をとるという場合がある。これと同様の構造を心理変化をひき起こす名詞転成動詞の例でもみることができる。

48)b) They *decoyed* him *into going into a dark street* (LDCE)

*be goaded* by hunger *into stealing* (OALD)

c) He *spurred* his players *to fight harder* (LDCE)

48)は道具を表すNの転成動詞の例であるが, 49)は「Nにする」タイプの転成動詞, 50)は乗物を表すNの転成動詞の例であろう。

49)b) Context may *fool* us *into thinking...* (MF p.19)

50)b) He *wheeled* the man *into buying the worthless stock* (WP p.43)

無論, 50)の ‘wheel’ は figurative に用いられている。

以上, 名詞転成動詞が心理変化という抽象的移動をひき起こす例を考察した。

#### 4. 結 論

名詞転成動詞を移動の観点から考察してきた。このように名詞転成動詞が移動に関係していることがあるのは, 動詞に転じるものが名詞であるということ自体に起因するように思われる。名詞の表すものとは, 移動をうけるものであ

ったり、置かれる場所であったり、移動のための手段であったりするからである。ともあれ、第3章でみてきたように名詞転成動詞が移動の動詞と同様の構造をつくるということは、J. Miller (1985) の “semantic structure should be based on the notions of location and movement” (p.vii) という主張を想起させる。

注) 詳細は『創価大学大学院紀要』第9集, 1987に掲載の拙論参照。

### Abbreviations

- FA S. A. Handford. *Fables of Aesop*. (Penguin Books, 1954)
- LHBW Laura I. Wilder. *Little House in the Big Woods*. (Puffin Books, 1932)
- MF Dwight Bolinger. *Meaning and Form*. (London and New York, 1983<sup>3</sup>)
- OMS E. Hemingway. *The Old Man and the Sea*. (Granada, 1976)
- 1984 George Orwell. *Nineteen Eighty Four*. (Penguin Books, 1954)
- T *Time*.
- TGH Roger Lancelyn Green. *Tales of the Green Heroes*. (Puffin Books, 1958)
- WP Norman Lewis. *Word Power Made Easy*. (New York: Pocket Books, 1978)

### Bibliography

- Anderson, J. M. *The Grammar of Case: Towards a Localistic Theory*. Cambridge Studies in Linguistics 4. London: Cambridge Univ. Pr., 1971.
- Bolinger, D. L. *The Phrasal Verb in English*. Cambridge, Mass.: Harvard Univ. Pr., 1971.
- Fraser, J. B. *The Verb Particle Combination in English*. Tokyo: Taishukan Publishing Co., 1974.



- Jackendoff, R. S. *Semantic Interpretation in Generative Grammar*. Cambridge, Mass.: MIT Press, 1972.
- "Toward an Explanatory Semantic Representation" *Linguistic Inquiry* 7, pp.89-150. Cambridge, Mass.: MIT Press, 1976.
- *Semantics and Cognition*. Cambridge, Mass.: MIT Press, 1983.
- Leech, G. N. *Towards a Semantic Description of English*. London: Longman, 1969.
- Miller, J. *Semantic and Syntax*. Cambridge: Cambridge Univ. Press, 1985.
- Quirk, Randolph *et al.* *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman, 1972.
- Rappaport, M. & Levin, B. "What to Do with  $\theta$ -Roles" *Syntax and Semantics*. Volume 21, pp.7-36. Academic Press, 1988.
- Zandvoort, R. W. *A Handbook of English Grammar*. London, New York, Toronto: Longmans, Green and Co., 1962.